

「子ども理解とは」 ラベルを剥がしていく営みー

250403

その子どもを理解するということは、ラベリングをしていくことではない。その子は、こういう子だという、今まで貼ってあったラベルを剥がしていくこと仕事こそ、その子を目覚めさせていく。

教師にとって、「子ども理解」で怖いのは、先入観である。前任者からの申し送り事項、うわさ、最初の印象など、それらは強烈にインプットされる。「やっぱり」「またか」などの教師の口癖がさらに見方に拍車をかける。

子どもが成長することは、脱皮であり、変身である。教師は、子どもを脱皮させて、たえずラベルを剥がしていく営みを意識して行いたい。

＜元豊田市内学校長 前田 勝洋 先生

「教師であるあなたにおくることば」より＞

新学期を迎え、新しい出会いの今、この言葉を胸に留めたうえで、生徒たちと向き合ってください。生徒たちの成長、脱皮、変身を真っ新たな目で見守ってあげてください。